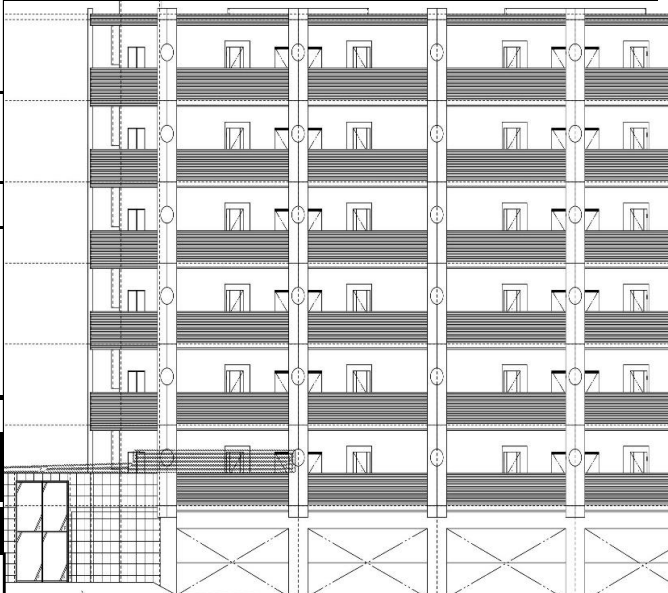
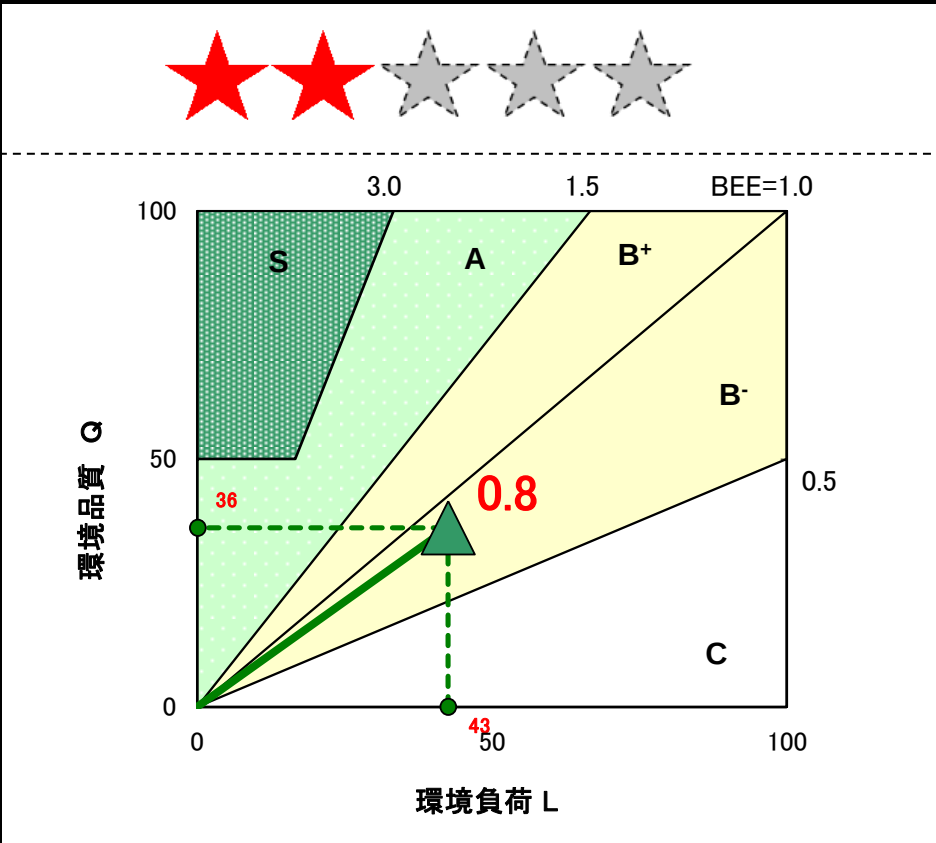


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)新大江3丁目M新築工事	階数		
建設地	熊本市中央区新大江3丁目39-1	構造		
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,408 m ²	作成者		
建築面積	512 m ²	確認日		
延床面積	2,792 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率
78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価	評価点
	70

評価点

■ 熊本県重点評価基準

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

79.2
67.5
55.0
69.6

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

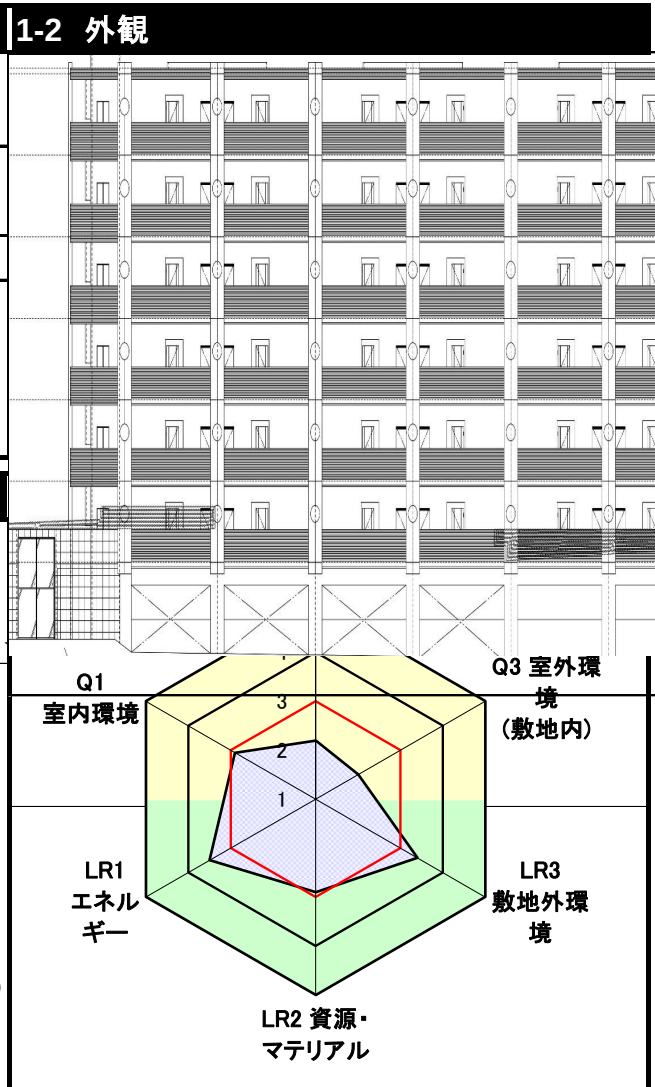
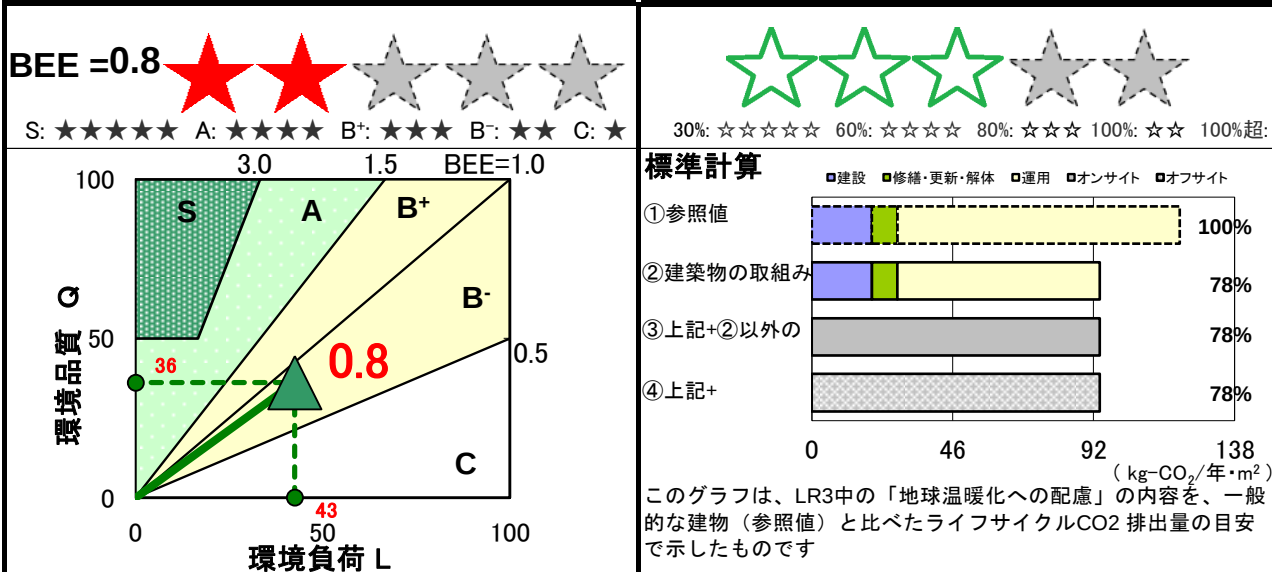
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

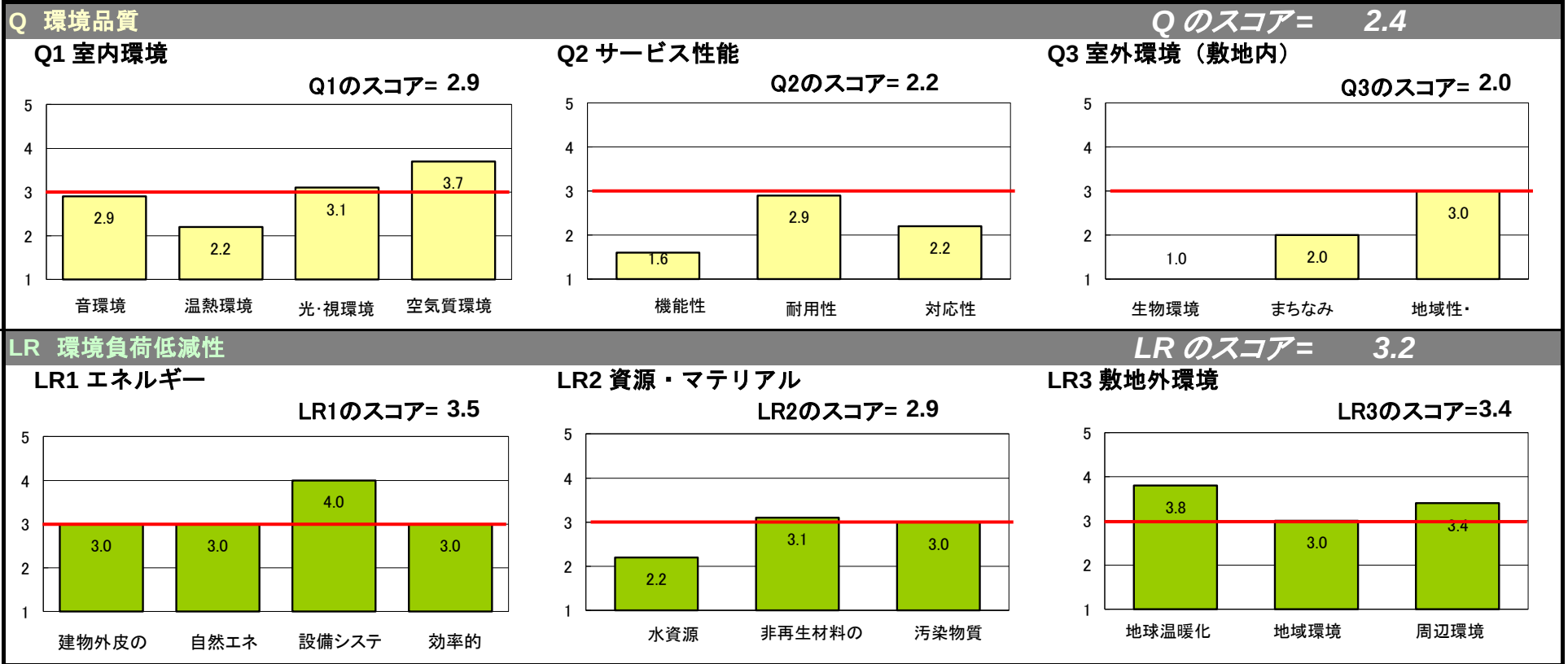
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新大江3丁目M新築工事	階数	地上7階建
建設地	熊本市中央区新大江3丁目39-1	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	108 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年7月15日
敷地面積	1,408 m ²	作成者	柳田 果李
建築面積	512 m ²	確認日	
延床面積	2,792 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		重点事項の評価(レーダーチャート)	
		評価点 = 70	
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点 = 79.2	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点 = 67.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	評価点 = 55.0	重点事項4: 循環型社会の実現	評価点 = 69.6

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)新大江3丁目M新築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)			
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.4	
Q1 室内環境			0.40		-	2.9	
1 音環境		2.0	0.15	3.2	1.00	2.9	
1.1 騒音		(共用部)ホール: 50dB(A) (住居部) 住戸: 40dB(A)					
1.2 遮音		1.0	0.50	2.4	0.50		
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-	-	-	-		
2 温熱環境		1.0	0.35	2.6	1.00	2.2	
2.1 室温制御		1.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温		1.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能		1.0	0.38	3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境		3.0	0.25	3.2	1.00	3.1	
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.4	0.50		
1 昼光率		5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50		
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境		3.6	0.25	3.7	1.00	3.7	
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		4.0	1.00	4.0	1.00		
2 アスベスト対策		-	-	-	-		
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38		
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-	-	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.2	
1 機能性		2.4	0.40	1.4	1.00	1.6	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	1.0	0.60		
1 広さ・収納性		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-	-	1.0	1.00		
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-		
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		Bを使用(給水・排水)	5.0	0.20	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.6	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	6	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.2	1.00	2.2	
3.1 空間のゆとり				-	-	1.4	0.50		
	1	階高のゆとり		-	-	1.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			2.6	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.0
	1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上		・空地率96.80%	4.0	0.50	-	-		
	LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 1.02	4.0	0.50	-	-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	-	-	-		
	集合住宅の評価(3c)		LED照明採用	4.0	1.00	-	-		
	4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-		
	4.1	モニタリング		-	-	-	-		
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2	
1.1 節水				1.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.60	-	-	3.1	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーティクルボード	3.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁・天井:木下地	4.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
	1	消火剤		-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォームB種	3.0	0.50	-	-		
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
	LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			リサイクル材の使用	3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
	3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-		
	1	騒音		-	-	-	-		
	2	振動		-	-	-	-		
	3	悪臭		-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-		
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	・光害がガイドラインチェックリスト過半を満たす・広告照明なし	5.0	0.70	-	-		
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

景観に配慮した外観デザインとした。また住戸では2LDKを計画し、入居者の快適性を重視した設計とした。

Q1 室内環境

・ F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

- ・ 更新必要間隔の長い給排水配管を採用し耐久性に努めた。
- ・ 外壁の仕上げでは、耐用年数の長いタイル張とした。

Q3 室外環境（敷地内）

・ 周辺景観に配慮した、外観デザインとした。

LR1 エネルギー

- ・ 各住戸の断熱性能を高めた。
- ・ LED照明を室内外に採用した。また共用部の照明で制御機能を設定し省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

・ 躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。（木下地）

LR3 敷地外環境

・ 駐車場と駐輪場を敷地内に設け、周辺の交通負荷の抑制に努めた。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)新大江3丁目M新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		70
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				79.2	0.40	31.68
Q1-2.1.2	外皮性能	2.6	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.8	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				55	0.20	11.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69.6	0.20	13.92
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数